

木と私たち 第2回講座

雑木林を歩こう

平成27年7月18日(土)

神代植物公園

受講生7名の参加で深大寺、神代植物公園を歩いてきました。

夏の風情の深大寺鬼燈市(ほうずきいち)が開催されており、結構な人出でにぎわっていました。

深大寺にお参りして、境内の大きな3つの大きな木があります。



キンモクセイ

ナンジャモンジャ

ムクロジ

「ナンジャモンジャ」の学識名称はヒトツバタゴ(モクセイ科)4月下旬に開花し、あたかも雪が降り積もったかのように真っ白な花が咲き乱れることから、別名スノーフラワーとも言われ、散り方はくるくると回転するプロペラのように花びらが散ります。

ムクロジ(無患子)はその実の果皮が石鹸のように泡だって汚れを落とすことができ、黒い種子は硬くて光沢がある為、羽根突きの玉に使われています。「子が患わ無い」という意味で、無病息災を願ったものです。



- ・昼食は深大寺そばをいただき、深大寺口から神代植物公園に入りました。
(65 歳以上の入園料は半額であります。)

植物公園の深大寺入り口にボランティア説明員の方と研修の3名が来ていただいていた。現在、開園50周年記念で名木50選ガイド「この木、大好木(だいすき)」が設定されており、その木々を説明してもらいながら、2時間半散策となりました。

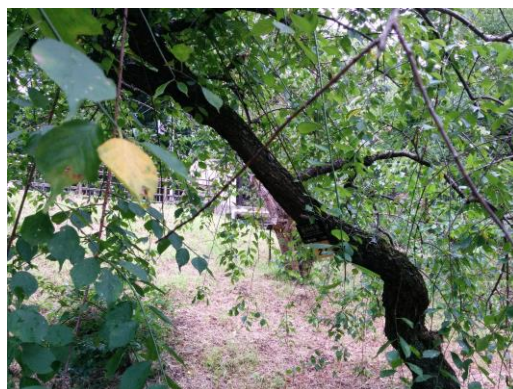
注：○番号は50選の地図の番号

②⑥遠州枝垂

神代植物公園では他の枝垂れが咲いた後に遅めにピンクの花が咲きます。

枝垂れ梅は出てきた芽の時から枝垂れており、支えをして真ん中を立てないと立っていかないので、ある程度の高さまで支えをして、枝垂れて良いところで、支えをしないことで樹形を作る。支えて上に育てていくので真直ぐの幹の形にならない。

遠州枝垂は余り他の所にはない梅です。



○オウバイ 江戸前期に中国より渡来した。落葉小低木で迎春花とも呼ばれます。モクセイの仲間で、お花が梅みたいな黄色い花を咲かせるので黄梅と呼ばれます。



○オキナバイ (翁梅) 斑入りの葉が特徴で白い花をつける。

②⑧シマサルスベリ

台湾、沖縄などにある、一般のサルスベリより小さな花と実もついてはいるが小さい。

樹皮が剥がれて落ちるようすが、良くわかった。樹齢は良くわからないが、落葉樹で秋の紅葉がきれい。



⑳ロウバイは花の中心に暗い紫褐色の斑があるが、中心まで透き通るような黄色のソシンロウバイ（素心蠟梅）があり、園芸品種なので、どこでもよく観る事ができる。。

新しい枝には花は付かない、園のロウバイは時期が悪い12月に切ったので、一昨年から花をつけなかった

クロバナロウバイはチョコレート色の甘く香る花が特徴で、大きな実をつけていました。



クロバナロウバイの実

㉑ナツツバキ（シャラノキ）

幹がきれいなツバキ科の木で、沙羅双樹（フタバガキ科）とは別の木です。

先端が出ているものはお花が終わったあとで、蕾のときは先が丸い状態です。



㉒サンシュユ

江戸時代の徳川吉宗のころに日本に入ってきたもの、葉っぱの裏の支脈に茶色の毛が生えている

のが特徴で黄色の花を一杯つけるので“春小金花”、秋に赤い実をつけることから“秋珊瑚”とも呼ばれる。樹皮が剥がれガサガサした幹が特徴。

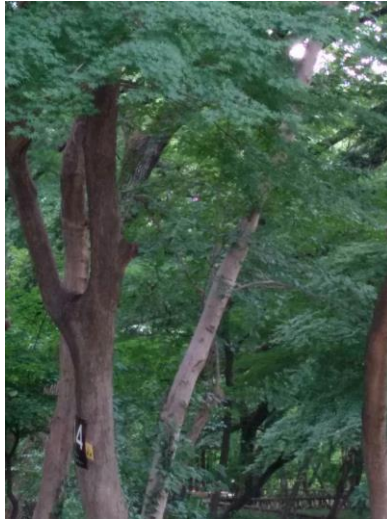
果肉は生薬に利用され、漢方方剤にも利用されるようです。ハナミズキは似ているが葉の裏に毛がないので区別できます。



②④イロハカエデ

オオモミジ枝に養分がいなくな
って、水だけの状態なので、秋期
と同じような状態になった枝が紅葉
していました。

イロハカエデは花は下向きに咲
き、実が付いてくる時期には日光
を浴びるように葉の上に出て、養
分をとって完熟すると葉の下に下
がって種を飛ばします。



オオモミジ

③⑩ヤマボウシ

6月ごろに咲く、花の形は多数が球体に集合し、白色の4枚の包
片花卉のように開き、また、袈裟のように観えるので山法師と呼
ばれる。

③③ユリノキ

大正天皇がユリの様だと言われたので、日本ではユリノキとなっ
ているが、花はチューリップのような花なのでチューリップの
木、また、葉っぱの形から半天木の別名があります。
実はスジがあり分かれれ落ちます。成長が早いので太い幹はカヌ
ーの材料にもなります。



ヤマボウシ

○モミジバフウ

葉っぱが楓の葉っぱに似ているので、モミジとカエデを合
わせての意味、マンサクの仲間です。
実は淡い緑色、球形で秋に茶色になって種を飛ばします。

○ホソバダイサンボク

ダイサンボクより葉の
形が細いのでこの呼称。
一輪だけ咲いている花
を観る事ができました。



③⑤源平枝垂（モモ）

上部が赤色の花が咲かないと価値がないので、接木をして赤色を咲かせるようにしある。上部と株の葉の色も異なっていた。

現在



春（出典：東京都公園協会“公園に行こう！”）



③⑨神代曙（サクラ）

日本から米国に送られたサクラの実を持ち帰って育てた苗木の5本を公園に移植したら、1本がまるで異なった花を咲かせたので、学者が調べてどこにも無いのでこれを新種原木として、名前は曙にしたかったので、神代曙との名が付いた。この原木からとった苗が別のところでも育てられている。



○ソメイヨシノ

枝垂れ桜は一番下の枝葉低く下がるので、下が堀や川でない場合は切り落とされるが、どのようになるか解るように二本の支柱で枝を支えてありました。

④⑥メタセコイア（曙杉） 1945まで化石で葉っぱしか解らなかったが、中国で見つかりって今は挿し木で着くのでどこでも観られる木となった。メタは“後“での意味、セコイアは恐竜の居た時期に多かった木が後で見つかったので、メタセコイアの名になった。

尖った樹形、幹が凸凹している。ラクウショウは幹の表皮がなめらかです。

曙杉とも呼ばれ、昭和天皇が曙杉の歌を詠まれたそうです。実は割ると杉の臭いがしました。



④ラクウショウ（落羽松）樹形は先端がメタセコイアとことなり尖ってなく、葉のつきかたはメタセコイアの対生につく対生と異なり、交互につく互生です。一つ一つが葉で小枝ごと落ち、それが鳥の羽に見えるの

でこの名が付いた、杉の仲間ですが、唐松に似ているから松と呼んだようです。実は丸く、完熟するとスジから分かれて落ちます。別名沼杉とも言われます。水

が大好きで、根を水の中に張りますが、その部分を“気根”といい、また、膝頭に見えることから、それを膝根（しっこん）と呼ばれます。



⑥タチバナ：みかんの原種で実は少し傷をつけると、柑橘類の香りがしました。

この木は明治時代に後の大正天皇の従者が京都御所の右近、左近の橘の実を持ち帰ったものの一部が、育ったので孫になる木とのことです。葉っぱの一部はみかんが大好きなカマキリ虫？食べられていました。



○ショクダイオオコンニャク（特別展示）

神代植物公園では、小石川植物園の開花が確実となったショクダイオオコンニャクが、園内「ばら園テラス」にて平成 27 年 7 月 26 日（日）まで展示されていて、その大きさにびっくり！！花は夜に咲き、その際は虫を誘うためか“異臭”がするそうです。



その他

キクモモ、カンヒザクラ、カンヒザクラ、ヤエベニシダレ、コブクザクラ、ハンカチノキ、センダン、アーモンド、ナツスイセン、ヒマラヤスギ、レッドオーク、ハウノキ、ザクロ、トチノキ、コブシ、ムクロジ、カルミア、アカマツ、ミズヒキ、ハス、バラなどを観察しました。

2 時間半の長時間一緒に歩いて、いろんな話を交えて説明をしていただき、楽しく充実した内容の勉強ができました。来年以降に時期を変えて訪れたいと思いました。写真を撮り、ボランティアの皆様全員で御礼を言って講座を終わりました。

